

令和6年度シラバス

科目名	地域・在宅看護論演習	授業方法： 演習・講義	
単位数・時間数	1単位・30時間	対象年次	3
担当教員	下村あい・橋本まゆみ・森本京介	実務経験の有無	有

【授業の概要】

在宅看護にかかわる保健福祉制度を理解し、実際にどのように運用されているかを学ぶ。また、在宅ケアにおける連携の重要性とその実際について学ぶ。地域・在宅看護論Ⅱで学んだ技術を実践場面で活用できるように、在宅での看護援助が導き出せるようなアセスメントと思考過程を修得する。さらに在宅にあるものを用いた看護用品を工夫し、在宅看護に特徴的な看護の創意工夫について学ぶ

【授業の目的】

在宅療養者及び家族の健康上の問題や利用可能な社会資源をアセスメントし対象に応じた計画の立案、在宅で生活する対象が安心して療養生活を送ることができる援助方法・看護の知識・技術を学ぶ。また、在宅看護活動における基本的な態度を養う。

【到達目標】

在宅での看護を展開していくための処置の方法や、在宅での看護過程の展開について、その方法を理解し、実践していくための基礎的な知識、技術を習得することができる。

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考
1	事例展開	実習で用いる書式を使用しながら、事例展開を行う。	事例展開し指定日までに提出する
2	①【療養を支える看護技術】	療養を支える看護技術を考え、実践する	
3			
4	②【模擬訪問】	訪問時の姿勢と態度 1) 訪問看護の目的と役割 2) 訪問看護における看護過程の特徴 3) 訪問看護における記録の意義と記載時の留意点	
5	③【情報収集】	情報収集の視点 (ICFの概念を適応した情報の把握、ADL・IADLへの視点)	
6	④【療養者・環境・家族・社会資源のアセスメント】	以下の視点を参考にシミュレーション状況からアセスメントする (1) 活動の制限と生活行為への支援 (2) 在宅での移動・移乗の特徴 (3) 住まい・生活環境のアセスメント (4) 補助具、移動、移送について (5) 住宅改修	
7	⑤【地域資源の探索】事例の療養者が活用できる地域資源について調べる	四万十市の地域資源を調べ、必要な資料を準備する。どのようにすれば活用できるのかを具体的にまとめる	
8			
9			
10	⑥【模擬面談】療養者と家族の意思確認	模擬面談を通して、療養者と家族の意向を確認し、今後の支援計画を検討する	
11	⑦【支援計画】		
12	⑦【支援計画の共有】		

13	くらしを支える看護の本質、今後の発展	くらしを支える看護の役割について、これまでの学びを統合する	
14			
15	試験	筆記試験	

【メッセージ】

看護過程の展開では、慢性呼吸器疾患のある療養者の看護について展開していく。在宅酸素機器の実際（機器の特徴、使用方法、日常生活上の留意点などについては、教科外活動で実際の機器を用いて学習する。講義開始までにこれらの解剖・生理、疾患、検査・治療・看護について学習して臨んでください。

【評価方法】

筆記試験 100%

【教科書】

在宅看護論 ①地域医療を支えるケア ②在宅療養を支える技術 メディカ AR
写真でわかる 訪問看護 アドバンス (インターメディカ)

【参考図書】

場面でまなぶ 在宅看護論 (メディカ出版)
地域療養を支えるケア (ナーシング・グラフィカ)
よくわかる在宅看護 (G a k k e n)
家族看護を基盤とした在宅看護論
プリンシプル在宅看護学

科目名	小児看護援助論演習	授業方法： 演習・実技	
単位数・時間数	1単位・30時間	対象年次	3
担当教員	中川 香居・黒岩 由香・森本 京介	実務経験の有無	あり

授業の概要】

こども観や小児看護の歴史的変遷、小児看護の機能と役割の理解をふまえて、こどもと家族の健康を維持するための理論、小児保健行政の動向と対策、小児保健活動の実際について学ぶ。

【授業の目的】

1. こどもの成長発達について、各発達段階における形態的成長、機能的発達、認知・運動・言語機能等の発達の視点から理解するとともに、成長発達に関連する代表的な理論を学び、成長発達過程にあるこどもの身体的・心理・社会的特性を理解する。
2. 健康なこども、健康問題や障害をもつこどもとその家族が健やかに成長発達できることを支えるための、法律、保健・医療・福祉制度について理解する。
3. 現在のこどもと家族を取り巻く環境や、健康問題や障害がこどもとその家族に及ぼす影響について理解し、小児看護に求められる役割と基本的な技術を修得する。

【到達目標】

1. 小児看護の理念・目的・目標と役割について説明することができる。
2. 小児の保健衛生統計、小児保健行政の動向と対策、小児保健活動の実際について説明することができる。
3. 小児の保健、医療、福祉に関する法律や制度について説明することができる。
4. こどもの権利について理解し、小児医療における倫理的課題や権利擁護における看護師の役割を説明することができる。
5. 小児各期の成長と発達および発達課題を理解し、発達段階に応じた生活の援助について説明することができる。
6. こどもを取り巻く環境とこどもの安全を守る方法を説明することができる。
7. 健康障害がこどもと家族に及ぼす影響を説明することができる。
8. 小児期から慢性疾患や障害をもつこどもとその家族を取り巻く課題や小児看護の役割を説明することができる。
9. 虐待等特別な状況にあるこどもについて、家族や社会の特徴を理解し、こどもの医療や福祉に携わる専門職の役割を説明することができる。
10. 小児看護の実践に用いる基礎看護技術の基本を理解し、実施することができる。

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考
1 2	絵本の読み聞かせの演習	一人ひとりが、園児（2歳～5歳児）への読み聞かせをする。	※絵本は各自準備する。
3 4 5	グループ学習	保育所での乳幼児と保育士とのコミュニケーションの様子を振り返り、考察する。	
6	まとめ発表	各保育所に分かれての発表	
7 8	演習	バイタルサイン測定	
9 10	演習	問診、診察の介助 遊びとプレパレーションの媒体	

11	演習	検査・処置	
12			
13	グループ学習	外来での実習を振り返り、考察する	
14			
15	まとめ発表	各実習グループに分かれての発表	

【評価方法】

授業態度や出席日数、提出物などから総合的に判断する。

【教科書参考書】

科目名	母性看護援助論演習	授業方法: 演習・講義	
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	3
担当教員	橋本まゆみ・中川 香居・下村あい	実務経験の有無	有

演習【授業の概要】

母性看護は、女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から、母性の健康の保持増進と次世代を生き育てる機能が健全に発揮できるよう、対象の身体的、心理・社会特性について多面的に理解し、健康への支援に必要な知識および技術が求められる。学内でくり返し練習、イメージトレーニング、ロールプレイ演習を行い、実践の場で安全・正確・安楽な技術を提供するための実践と直結した演習である。

【授業の目的】

妊娠・分娩・産褥の期間をとおして、母体および胎児・新生児の健康を維持・増進、および異常の早期発見と予防ができるよう援助するために必要な基本的援助技術を学ぶ。また、健やかな母子の生活を支援するための地域包括ケアシステムについて知識を深める。

【到達目標】

1. 安全な沐浴を行うための技術を修得することができる。
2. 妊婦健診で用いる看護技術を修得することができる
3. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児のアセスメントと基本的な援助技術を修得することができる
4. 母子保健における地域包括ケアシステムのあり方を述べるることができる
5. 乳幼児健康診査の意義と役割を述べるることができる
6. 母子愛着形成の促進および保育者同士のつながりを促進するための企画を立案することができる

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考(予習・復習内容)
1	沐浴技術の確認試験	2名で母親への沐浴教育を行う。 1名は児を入れ、1名は説明を行いOSCE 沐浴技術試験で評価する。	【予習】2名で協力し、沐浴教育の練習を繰り返し行う。
2			【復習】振り返りシートに自己の教育内容を振り返り期日までに提出する。
3~5	妊娠期のアセスメントと援助技術	1. ベッドまでの誘導方法 →排尿確認、問診、血圧確認、体重計測、ベッドでの体位、羞恥心への配慮 2. 母体計測(子宮底長、腹囲) 3. レオポルド触診法 →胎位・胎向を診断する 4. NST 装着法 →胎位・胎向に合わせた装着場所の確認、NSTの判読法 5. 内診台の介助	【予習】 1. 妊娠期の国家試験問題を解いてくる 2. 妊娠期の事前課題(穴埋め、事例のアセスメント) 【復習】 1. 妊娠期のアセスメント再提出 2. 妊婦健診に用いる技術練習
		・目標の立て方 ・妊娠期のシミュレーション学習 ・事例の解説	
6・7	妊婦健診技術の確認試験	看護師役1名、母親役1名となりOSCE 妊婦健診技術試験で評価する	【予習】2名で協力し、妊婦健診にかかわる一連の手技の練習を繰り返し行う。 【復習】振り返りシートに自己の教育内容を振り返り期日までに提出する。

8～ 10	分娩期のアセスメントと基本的な援助技術	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の立て方 ・分娩期のシミュレーション学習 ・事例の解説 ・産通緩和ケアの実践 	<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の国家試験問題を解いてくる 2. 分娩期の事前課題（穴埋め、事例のアセスメント） <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期のアセスメント再提出 2. 分娩期の目標・観察項目の再提出
11・ 12	産褥期のアセスメントと基本的な援助技術	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の立て方 ・産褥期のシミュレーション学習 ・事例の解説 ・子宮底の観察と子宮底輪状マッサージ ・乳頭・乳輪マッサージ乳房トラブル ・授乳姿勢(抱き方、ラッチオン、乳頭の含ませ方、排気) 	<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の国家試験問題を解いてくる 2. 産褥期の事前課題（穴埋め、事例のアセスメント） <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期のアセスメント再提出
13・ 14	新生児のアセスメント技術	<ul style="list-style-type: none"> ・新産児に行われる処置 ・生理的黄疸、生理的体重減少 ・バイタルサインの測定技術 ・新生児の全身観察 ・身体計測技術 	<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書 QR コードで技術の確認と手順書を書く 2. 産褥期の国家試験問題を解いてくる 3. 産褥期の事前課題（穴埋め、事例のアセスメント） <p>【復習】アセスメントと手順書へ不足分を追記し再提出</p>
15	母子保健における地域包括ケアシステムのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健の動向 ・四万十市における地域包括ケアシステムの実践<妊娠・出産包括支援事業、母子保健センター、ファミリーサポートセンター> 	<p>【予習】レポート課題 「地域で母子を支援するための地域包括ケアのあり方と看護職の役割」</p> <p>【復習】実習事前学習として、四万十市の母子保健概要をまとめる</p>
16	乳幼児健康診査の意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診で取り扱う健康課題 ・健やか親子 21 ・健やかな次世代を継承することを支援するとは 	<p>【予習】乳幼児健康診査について調べてくる</p> <p>【復習】実習事前学習として、乳幼児健康診査の概要をまとめる。</p>
<p>【メッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート等に使用した資料は、すべて手元に保管しておきましょう。実践的な技術修得は何度も練習しなければ身につけません。時間を見つけて練習を繰り返し、必要な知識と技術を身につけてください。 			

【評価方法】

筆記試験 80%, 課題 20%

【教科書】

森 恵美, 他編: 系統看護学講座専門分野Ⅱ, 母性看護学概論, 2020, 医学書院

末岡 浩, 他編: 系統看護学講座専門分野Ⅱ, 成人看護学 [9] 女性生殖器, 2021, 医学書院

有森直子, 他編: 母性看護学Ⅱ質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得第2版, 2020, 医歯薬出版株式会社

荒木奈緒, 他編: ナーシング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第4版, 2019, メディカ出版

岡庭 豊, 病気がみえる vol. 10 産科第4版, 2019, メディックメディア

【参考図書】

厚生労働統計協会: 厚生指針 増刊 国民衛生の動向第66巻第9号, 厚生労働統計協会, 2019

科目名	精神看護援助論演習	授業方法:	演習・講義
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	3
担当教員	山下 美登世・森本京介・黒岩 由香	実務経験の有無	有

【授業の概要】

紙上事例を展開させ、こころに障害を持つ対象への看護や、社会資源を活用した退院支援について学ぶことができる。また、対象を理解したうえでレクリエーションを企画し実践につなげていく

【授業の目的】

1. 精神に障害を持つ患者のこころと行動を総合的に理解する
2. 精神障がい者に対する人権擁護の重要性を理解する
3. 生活者としての精神障がい者を理解する
4. 患者との関わりを通して接近の技術を学ぶ

【到達目標】

1. 精神障がい者の病態を理解し、患者の心身の変化と全体像を説明することができる
2. 精神症状が日常生活に及ぼす影響を説明することができる
3. 精神障害状態にある患者への接し方を述べるることができる
4. 患者の日常生活が安全に過ごせるように配慮した計画を立案できる

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考(予習・復習内容)
1	疑似体験	バーチャルハルシネーションを活用し 幻聴の疑似体験をする また、感じたことについてグループワーク プロセスレコードとは 国家試験問題 (50 問程度)	イヤホンなどの準備
2	講義 心構え・接し方	渡川病院からメッセージ DVD 視聴 精神障害を持つ患者との接し方の工夫 国家試験問題 (50 問程度)	プロセスレコードを 1 例記入 し提出する
3	講義 心構え・接し方	良い所を探す視点を養う エンディングノートについて リフレーミングとは 国家試験問題 (50 問程度)	
4	看護展開	事例展開 4 つの疾患について看護過程の展開 (1 号紙・個人活動)	
5	看護展開	事例展開 4 つの疾患について看護過程の展開 (1 号紙・個人活動)	
6	看護展開・GW	事例展開 看護過程の展開 グループ内で看護の方向性について発表し、グ ループとして看護の方向性を考え関連図を作成 する(全員で模造紙に)	
7	看護展開	事例展開 看護過程の展開発表と模擬カンファ レンス	
8	プロセスレコー ド	プロセスレコードカンファレンスを実施	
9	レクリエーショ ン	精神科におけるレクリエーションの企画・準備	
10	レクリエーショ ン	精神科におけるレクリエーションの準備	

	ン		
11	レクリエーション	レクリエーション発表会	
12	レクリエーション	レクリエーション発表会	
13	DVD 視聴	DVD でよりイメージを広げる	
14		精神に関する映画視聴後感想文記入	
15	筆記試験		
<p><メッセージ>イメージしにくい精神科ですが、代表的な事例を通して看護展開を行い、グループごとにレクリエーションを企画し、模擬を実施してみましょう。仲間との協力姿勢を持ち、効果的なレクリエーションの企画を期待しています。まず、自分達が楽しむことが大切です。また、自己を振り返る事、他者の良い所を探せる力を伸ばしていけることを目指しています。</p>			

【評価方法】 筆記試験 80%・授業態度 10%・出席状況 10%

【教科書】 南江堂 精神看護学Ⅱ

【参考書】 医学書院 精神看護学①精神看護の基礎②精神看護の展開

科目名	臨床看護実践演習	授業方法: 演習・講義	
単位数・時間数	2単位 60時間	対象年次	3
担当教員	森本京介・橋本まゆみ・山下美登世 中川香居・下村 あい・黒岩 由香	実務経験の有無	有

【授業の概要】

医療の現場は医療の発展とともに複雑かつ多様化し、看護職者の役割が大きく拡大しつつある。また、看護実践では、専門的知識・技術・コミュニケーションの3つを駆使した高度な実践が求められている。看護実践者としては、時代や医療環境の変化を受け止め、患者の生活を守る専門職としてぶれない軸をもち、さらにマネジメント力を身につけ、より安全に専門性の高い職務を全うするために医療安全の基本的知識の修得は基より、安全なケア環境を提供する能力、危険を認識する能力を養う必要がある。看護はサービスの対象が人間、それも疾病や障害、苦痛を心身にもつ患者である。医療職ほど、わずかな間違いでも対象の傷害に直結する職業はない。よって、どの過程においても確かな知識と技術とともに対象の安全を最優先する看護の提供が求められる。しかし、看護師は「業務中断」「時間切迫」「多重課題」といった、ヒューマンエラーを誘発する要因に常に囲まれており、危険とプレッシャーにさらされる中で、看護を実践していることが指摘されている。本単元は、「臨床に即した実践的な考え方に基づくマネジメントと医療安全」「学生が卒業業務をイメージできる」よう、統合実践実習に通ずる事前・後演習である。統合実践実習の目標は、これまでに培った知識や技術を統合して、対象の状況に応じた看護を行うこと、すなわち看護実践能力を身につけることである。そして、統合実践実習後は、専門職として研鑽し続ける基本能力を養うため各自が振り返り、自己の課題を明確にすることで、卒業時の実践能力向上を目指す。

【授業の目的】

臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行を疑似体験し、状況判断の重要性と看護実践の安全性を学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図る。また、医療安全の根幹となる安全な医療やケアを提供するための原理・原則の遵守、ノンテクニカルスキル、失敗から学ぶ姿勢、レジリエンス力の習得を目指すため、時間管理、多重課題、優先度の決定などのより実践的な看護を学び、看護チームとしての連携が必要となることの理解へ繋げ、自己の看護実践における課題を見出す。

【授業の目標】

1. 「人は間違いをおかす」存在であることを自覚し、自己モニタリングができる
2. 看護実践に潜む危険性を査定できる
3. 対象の日常生活援助において危険回避の方策を考え、実践できる
4. チームの一員であることを念頭にSBARでの報告方法を理解し、正確に報告することができる
5. 医療に潜む危険性を回避するために他職種に必要な情報を提供することができる
6. 多重の問題を持つ患者の援助計画が立案できる
7. 複数患者の疾患を理解して優先順位を考えた行動計画を立案しその根拠を医療安全の視点で説明できる
8. 看護実践中に起こった突発的事象に対して、チーム連携の視点で看護の実践を振り返ることができる
9. 統合実習に向けた自己の課題を理解して、ゴール（目標）が見いだせる

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考(予習・復習)
1	安全な看護ケアを提供する際の留意点	1) 実習への向き合い方 2) 医療安全に対する責任と義務 3) 看護学生のヒヤリハット事例	【復習】“これまでの実習で体験したヒヤリハット”課題を提出する

2	危険予知 トレーニング	1) リスクアセスメント力を身につけるための KYT 活動 【複数患者受け持ちを想定した実践的事例展開】 臨床を想定し①多重課題②時間切迫③業務中断を体験する。 グループディスカッションを行い危険予知と対応方法について検討する。	【予習】 最近の医療事故に関する新聞記事を調べ、感想をレポート用紙1枚にまとめる。新聞記事と共に提出する。 【復習】 授業の感想を指定の用紙に書いて提出する(期日は授業中に伝える)
3			
4	組織としての医療安全対策	1) 医療安全推進のための取り組み 2) システムとしての事故防止の具体例 3) 医療事故調査制度の概要	【予習】なし 【復習】統合実習に向けて組織としての医療安全体制および実習施設の取組みを調べてまとめる。
5	医療事故から学ぶことの大切さ	1) DVD 視聴 (KYT) 2) 視聴したのちグループディスカッション	
6		3) 自己の考えをまとめる	
7	SBAR について学ぶ	1) コミュニケーションエラーを防ぐ“SBAR(状況・背景・評価・提案)の基礎” 2) SBAR の実践と臨地実習での活用	【復習】 実習場所で実践し活用する
8		・看護における状況判断と実践能力 技術の安全性、効率的な実践 状況判断能力の重要性	【予習】事例について疾患、症状、治療に対する事前学習 【復習】・2人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案を行う
9	看護教育の変遷	・現在求められる看護とは ・社会情勢 ・新人看護師の離職率 ・新人看護師の離職理由	【予習】事例について疾患、症状、治療に対する事前学習 【復習】・2人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案を行う
10	1日の業務の組み立て	・複数事例を用いた看護アセスメント 1) 2人の患者の行動計画を立案。 ・状況判断/優先順位/時間的配分/安全安楽を考慮したケアのマネジメント	【予習】 ・2人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案を行う
11		2) 行動計画発表 意見交換し、状況判断/優先順位/時間的配分/安全安楽を考える	【復習】 ・事例について疾患、症状、治療に対する事前学習の追加・修正を行う。 ・グループで話し合った結果をもとに、自分の行動計画を追加・修正する
12	チームワークとコミュニケーション	・多職種連携(看護師の役割) ・看護チームでの情報共有 ・継続看護 ・看護サマリーの書き方	提示された事例を基に、GWを行い短時間で判断し、看護が提供できるよう机上シミュレーションを行い、グループでまとめる。
14		サマリー発表 意見交換/指導 ・看護師菅での情報共有、継続看護のために必要なサマリーの書き方とは	【予習】2名の患者の中間サマリーを起債してくる 【復習】 意見交換した内容を修正する
15			

16	多重課題、突発事象への対処	DVD 視聴 意見交換/発表/指導 「よくある場面から学ぶ多重課題」	【予習】 医療安全での授業資料を再復習しておくこと
17		1 予定変更 2 複数の行為 3 複数の人との関わり	【復習】 DVD の視聴、学びの中から自己の課題を明確にし、A4 1 枚にまとめて提出
18	実践演習 (優先度に合わせた看護実践)	・実践演習 (事例検討) 1) 客観的臨床能力試験 (設問 OSCE) 2) 患者の状態に合わせた看護実践 3) 複数患者の優先度に合わせた看護実践 ・実践演習 (事例検討) 基本技術の振り返り/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認する	【予習】 ・事例について疾患、症状、治療に対する事前学習の追加・修正を行う。 ・グループで話し合った結果をもとに、自分の行動計画を追加・修正する
19			【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
20	技術演習	・実践演習 (2名の患者の看護実践)	【予習】基本技術の手順・根拠について再確認
21			【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
22	客観的臨床能力試験 (OSCE)	・客観的臨床能力試験 (OSCE) (2名の患者の看護実践) ・卒業到達時に求められる能力をもとに、評価をし、自己の課題を見出す	【予習】基本技術の手順・根拠について再確認
23			【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
24			
25			
26	客観的臨床能力試験 (OSCE)	ふりかえり 突発事象基本技術/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認 「自己の課題を明確にし、卒業時における看護実践能力を向上させるためには」	【予習】基本技術の手順・根拠について再確認 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
27	実践演習 ・統合看護学実習を終えての学びとふりかえり	発表	【予習】
28		テーマ[医療職を選択することの重さと安全努力の責務～自己の課題とこれからの取り組み～]	テーマに向けて、それぞれ発表できるよう、準備しておく
29			PPTによるプレゼンの準備
30	試験	1) 筆記試験	試験
<p>【メッセージ】</p> <p>・3年次は実習でさまざまな対象者と相対し看護を展開します。みなさんが対象者の安全を守る行動がとれ、そして安全に実習を遂行できることができるよう常に意識づけを行います。そして、「してはならないこと」と「すべきこと」の根拠・理由を実習と連動させながら修得してください。</p> <p>・今まで学んできた知識と技術を統合し、臨床実践に近い形で学習します。チームの中の一員であることを念頭に、報告・連絡・相談を行いながら、チームメンバーと連携し、自己の看護の実践を振り返り、自己の課題を明確にしましょう。</p>			

【評価方法】

筆記試験 50%、技術試験 30%、授業態度 20%で総合的に評価する。

【教科書】

看護実践マネジメント/医療安全,メヂカルフレンド社, 2020

【参考図書】

石川雅彦, 斉藤奈緒美: リスクアセスメント力が身につく 実践的医療安全トレーニング第1版, 医学書院, 2016

小林美亜, 他編: 看護学テキスト統合と実践 医療安全 改訂第2版, 学研メディカル秀潤社, 2018

川村治子: 系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践第4版, 医学書院, 2018

任和子, 他編: 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術II 第17版, 医学書院, 2019

岡庭豊, 他編: 看護がみえる vol.1 基礎看護技術第1版, メディックメディア, 2018

系統看護学講座 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I・II 医学書院

参考文献 看護 OSCE 中村 恵子 メヂカルフレンド 指定教科書の全体 評価 課題レポート及び客観的臨床能力試験 (OSCE) 実施により評価する (課題への取り組み状況等を評価時の参考に加える)

科目名	卒業研究	授業方法： 講義・演習	
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	3
担当教員	山下美登世・橋本まゆみ・中川香居 下村あい・森本京介・黒岩 由香	実務経験の有無	有

【授業の概要】 看護専門職の目標は、患者に提供される看護サービスの効果を最大限にすること、すなわち質の高い看護を提供することにあると言える。そのために、看護に対する日々の看護実践を振り返り、具体的な看護ケアに関する‘疑問’や‘問題意識’に目を向けることが大切である。本単元では、看護への探求心を育み、看護職として暗黙知を形式智へと高めるための、手段と方法を修得するための礎となることを狙いとする。

【授業の目的】

看護研究方法の基礎を修得し、自己の実践事例をケースレポートすることができる

【到達目標】

1. 実践事例から看護になり得た、もしくは、看護になり得なかったと思えた事例を選択できる
2. なぜ看護になり得たか、なぜ看護になり得なかったのか説明でき、研究素材を述べることができる
3. 素材化した事例を、研究の作法に沿って記述することができる
4. ケーススタディにより、看護が取り扱う課題と問題に向けた解決・改善策を提示できる力を身につける

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考(予習・復習等)
1	ガイダンス	1) 看護研究の学習方法の説明 2) それぞれの一番印象に残っている看護体験についてグループへ発表する	【予習】「私の看護を振り返る」の用紙を書き、授業時に持参する
2	文献検討	[文献レビュー] 1) 文献検索の方法について 2) 文献を検索してみる 3) 文献クリティークとは	【予習】配布された文献を読み、要約してくる。疑問点や気になる点を意識しながら読んでみよう。 【復習】自分の気になる文献を3つ探し、指定の様式に沿って記載する。
3	研究計画書の作成	1) 自己の体験、先行研究をもとにリサーチクエスチョンを明確化し研究課題を決定する ・研究の動機、目的・研究の意義 2) 倫理的配慮について	【復習】研究テーマ、動機、目的、意義を指定の様式に沿って記載し、期日までに提出する。
4	・研究の作法について 論文作成	1) 論文の記述の原則、まとめ方を知る 2) 全体の構成 1) [はじめに]	【予習】配布された文献を読み、文献の構成について考えてくる。 [はじめに]にはどのようなことが記載されているか調べてくる。 【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する。
5	論文作成	2) [目的] [方法]	【予習】[目的]と[方法]にはどのようなことが記載されているか調べてくる。 【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する
6		3) [結果]	【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する

6		4) [考察]	<p>【予習】もう一度、自分のテーマに関連する文献をいくつか読み直し、必要であれば探してくる。</p> <p>【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する。</p>
7		5) [結論]	<p>【復習】何度も読み直し、本当に伝えたいことを書けているか、だれが読んでも伝わる内容か、そして首尾一貫しているか確認を行う。</p>
8	グループ内 発表	グループ内で発表をし、アドバイスをもらおう。教員はファシリテーターを務める。	<p>【予習】グループ内で順序や発表形式を決め、タイムスケジュール表を作成し、提出する。</p> <p>【復習】ケースレポートに加筆修正を加える</p>
9			
10	論文修正	指摘事項を加筆修正し、論文を仕上げ、授業終了時に全員提出する	
11	‘研究とは’ ふりかえり	ケースレポートを書いてみて、研究の意義を振り返る。これからの課題を明確にする。	<p>【予習】レポート課題あり。 「なぜ看護研究は必要なのか」</p> <p>【復習】発表準備を重ねる</p>
13	発表準備	1) 冊子作成 2) 会場準備	
14	学内発表会	発表する	
15			
メッセージ		看護と向き合う大切な時間です。自分自身の看護を丁寧に振り返り、研究の第一歩を踏み出しましょう。	

【評価方法】 研究論文、各授業時の提出物、態度で総合的に評価する

【教科書】資料

【参考図書】 早川和生:JNN スペシャル看護研究の進め方 論文の書き方, 第2版第4刷, 医学書院, 2014,
川村佐和子:看護研究, 第3版第1刷, メディカ出版, 2018.

科目名	看護管理	授業方法： 講義	
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	3
担当教員	竹林 高子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

看護管理は、看護管理者だけでなく全ての看護職が看護活動を効率的、効果的、創造的に行うために必要な能力である。看護管理の大きな特徴は、管理の目的が看護活動によって人々の健康と幸福に貢献することにある。その為には、療養者と職員の間性を尊重し、公共性に立脚して、組織経営における効率性・競争性の折り合いをつける管理が求められる。看護管理には組織への視点とともに、組織を取り巻く社会への視点が必要であり、より良い看護を行うには他者と共に活動すること、つまり協働が不可欠である。各・専門職（コ・メディカル）間における協働・連携する能力を育成することは、看護組織メンバーとしての効果的な活動、ケアや活動の中で感じた問題の改善、イノベーションの創出には組織理解が必要であることに繋がる。そして、看護師自身の専門職としての成長は、看護管理の重要な要素である。組織を構成し、看護活動を生み出す看護職員が健康で生き生きとやりがいをもって働くこと、そして看護専門職に求められる能力を主体的に高めていくことが重要である。

【授業の目的】

各・専門職（コ・メディカル）間における協働・連携する能力を育成し、看護組織メンバーとしての効果的な活動、ケアや活動の中で感じた問題の改善、イノベーションの創出には組織理解が必要であることを学ぶ。

このことは、看護管理は看護管理者だけでなく全ての看護職が看護活動を効率的、効果的、創造的に行うために必要な能力であることがわかり、最良の看護を患者・家族に提供するためにチームや組織、システムを動かすために必要な看護マネジメント力についてを深く学ぶ。

【到達目標】

1. 自己の看護実践のマネジメントスキルを理解することができる
2. リーダーシップとメンバーシップを理解することができる
3. 実践に活用可能な資源について理解することができる
4. 看護をシステムとして考えることができる
5. 医療と他産業の相違を理解することができる
6. 各・専門職（コ・メディカル）間における協働・連携の必要性を学び、多職種連携における看護師の役割を説明できる
7. 看護に対する思考力を高める方法を理解することができる

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考
1		自身の人生の軌跡と今後の人生設計（SW/GW）	
2		人々の生活と看護活動の場面の变化	
3		看護管理とは	
4		組織の成り立ちと構造	
5		人間関係を構築するスキル（SW/GW）	
6		ストレスマネジメント（SW/GW）	
7		リーダーシップ① *リーダーシップの使い分け	
8		リーダーシップ② *意思決定と嫌われる勇氣	
9		看護の質保証と看護管理	
10		看護経営の基礎	
11		生涯学習と成人学習者理論	
12		看護と関係法規（事前GW宿題の提出と発表）	

13		7人の怒れる男 (DVD 視聴)	
14		7人の怒れる男 (レポート・GW)	
15		テスト	

【評価方法】

試験、課題レポート、GW参加度、出席状況、授業態度

【教科書】

ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践の看護管理

【参考書】

「組織で生きる」 医学書院 「リーダーシップが面白いほど身につく本」 中経出版

「組織つくりとマネジメントの鉄則」 MCメディカ出版

「看護現場のストレスケア」 医学書院

「嫌われる勇気」 ダイアモンド社

地域・在宅看護論実習Ⅱ

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	授業方法： 実習	
単位数・時間数	2単位・80時間	対象年次	3
担当教員	橋本まゆみ・下村あい・山下美登世・森本京介・中川香・森本京介・黒岩由香	実務経験の有無	有

I. 目的

療養者の住まいを拠点として療養者・家族の望む生活を理解し、多職種と連携をはかりながら、療養者とその家族の、病気や障害にまつわるさまざまな問題への取り組みを支え、自ら望む生活を継続できるように支援するための基礎的看護実践能力を修得する。

II. 目標

1. 在宅での暮らしを継続するための日常生活支援を実践することができる
2. 加齢や病いとともにある人と家族を支える支援方法について考察することができる
3. 幡多地域における保健・医療・福祉の連携及びケアマネジメントの実態について説明することができる
4. 幡多地域で取り組まれている「地域包括ケアシステムにおける在宅ケアの全体像と看護職の役割」を説明することができる

III. 実習方法

1. 実習単位数：2単位(3年次)80時間
2. 実習時期及び期間
4月8日(月)～ 10月4日(金) の間で10日間
3. 実習時間：8：30～17：00(実習施設により異なる)

4. 実習スケジュール (例)

【1日目】 地域包括支援センター	【2日目】 地域包括支援センター	【3日目】 居宅介護支援事業所	【4日目】 居宅介護支援事業所	【5日目】 居宅介護支援事業所
【6日目】 訪問看護ステーション	【7日目】	【8日目】	【9日目】	【10日目】 学内にて振り返りまとめ

※実習前オリエンテーション 2コマ ・実習後まとめの会発表 2コマ

5. 実習施設

場所		実習時期
地域包括支援センター	四万十市	3年次
居宅介護支援事業所	黒潮 ・ シーサイド	
訪問看護ステーション	竹本病院訪問看護ステーション グリーンハーツ あったか渭南訪問看護ステーション	

6. 実習における留意点

- (1) 服装は、学校指定のジャージ・室内(デイケア)ではナースシューズを着用する
それ以外はスニーカー(華美でないもの)
- (2) 昼食は学生が持参し、指定の場所で休憩を取る
- (3) 車は、指定の駐車場に縦列駐車・必ず駐車場許可書をボードに提示する
※但しシーサイドは、汽車移動とする
- (4) 訪問時マナーに留意し訪問を実施する
 - ① 訪問時の挨拶と自己紹介
 - ② 丁寧な言葉づかい
 - ③ 話しやすい雰囲気づくり
 - ④ 傾聴的態度
 - ⑤ 状況にあった笑顔で接する
 - ⑥ わからないことは素直にわからないと伝える
- (5) 実習に関する記録物は所定の記録用紙を使用する

地域包括支援センター	実習計画表
通所介護施設	通所リハビリテーション・通所介護事業所記録
居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所記録
訪問看護ステーション	訪問看護記録・実習計画表

- (6) 実習終了後、(翌週の水曜日) 実習に関する記録物と評価表・まとめのテーマ・レポートを提出する
- (7) 実習記録物のシュレッター分：実習終了後1週間以内
◇レポート
テーマ：幡多地域で取り組まれている「地域包括ケアシステムにおける在宅ケアの全体像」と看護の役割
書式：400字詰め(A4横書き)表紙を含めて4枚以上
PC使用が望ましいが無理なら原稿用紙で可

【地域包括支援センター】

実習目的：地域包括支援センターの役割機能について学ぶ

実習目標：地域で生活する人々の心身の健康の保持・増進及び総合支援のために地域包括支援センターの役割を理解でき述べることができる

目標及び学習内容

目標	行動目標	学習内容	指導要綱
1. 地域で生活する人々の心身の健康の保持・増進および総合支援のために地域包括支援センターの役割を理解でき述べる事ができる	1) 地域包括支援センターの概要について述べる事ができる 2) 地域包括支援センターの役割機能を述べる事が出来る 3) 総合的、重層的なサービスネットワークと多職種連携の看護職の役割を理解できる	①地域包括支援センターの概要 ②総合相談支援業務 ・地域におけるネットワーク構築業務 ・実態把握業務 ・相合相談業務 ③介護予防ケアマネジメント業務 ・介護予防のしくみと事業サービス ・介護予防ケアマネジメントの進め方 ・介護予防ケアマネジメントの事例 ・介護予防ケアプラン 介護予防事業(予防給付・地域介護事業) ④権利擁護業務 ・虐待への対応 ・困難事例への対応 ・消費者被害の防止 ⑤包括的・継続的ケアマネジメント支援事業 ・包括的継続的ケアマネジメント体制の構築 ・ケアマネジャーに対する個別支援 ⑥認知症対策への推進 ・医療機関との連携及び支援体制 ・認知症予防施策 ⑦地域ケア会議の推進 ・地域のネットワーク作り及び課題の把握	1. 事前学習の提示・不足分を指導し実習に臨ませる 2. 実習オリエンテーションから地域包括支援ステーションの概要・法律・施策・業務について理解できるように説明する 3. 対象者との関わり方、注意点、支援方法について考える機会を提供する 4. 他職種との連携方法やその重要性を理解させ看護職の役割に気づかせる 5. まとめの会・方法・内容については学生が企画する *同行する対象者には、学生の実習について事前に口答で了解を得ておく

【居宅介護支援事業所】

実習目的：総合的な介護サービスを提供する居宅介護支援事業所の役割を述べる事ができる

実習目標：具体的な業務内容を理解し、関連サービス期間との連携方法及びその重要性を説明できる

目標及び学習内容

目標	行動目標	学習内容	備考	指導要綱
1. 具体的な業務内容を理解し、関連サービス機関との連携方法及びその重要性を説明できる	1) 居宅介護支援事業所の役割機能を述べる事ができる 2) 関連機関との連携方法を述べる事ができる	1. 居宅介護支援事業所の概要 ・介護保険制度(介護給付と予防給付) ・ケアマネジメントの方法・役割 ・サービスの確保 2. 申請から利用時まで	居宅介護支援事業所介護保険について自己学習をする	1. 事前学習の提示・不足分の指導し実習に臨ませる 2. 実習オリエンテーションや実習を通して居宅介護支援事業所に関連する法律や施策・

		<p>の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント ・介護サービスの種類(一覧) ・関係機関との連絡調整 <p>担当者会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用開始から利用後の経緯 ・経過訪問と内容 		<p>業</p> <p>務について理解できるよう説明する</p> <p>3. 対象者との関わり方、及び注意点、支援方法について考える機会を提供する</p> <p>4. 他職種との連携方法やその重要性を理解させ看護職の役割に気づかせる</p> <p>5. まとめの会・方法・内容については学生が企画する</p> <p>*同行する対象者には、学生の実習について事前に口答で了解を得ておく</p>
--	--	--	--	---

実習の流れ

項目	方法
学内オリエンテーション	1. 在宅看護論実習目的・目標・内容・方法・記録・態度・注意事項・必要な学習などについて説明を受ける
施設オリエンテーション	1. 各施設の概要・日程・注意事項など説明を受ける
事前学習	1. 居宅介護支援事業所地域実習の目的、目標をふまえて自己の学習課題を明確にする
実習の展開	1. 毎日の実習目標を明確にし、行動計画に記入し実習に臨む 2. 朝のミーティング参加時に実習目標・計画を発表する 3. 行動計画に沿って、指導者とともに行動し実習を行い、最終日まとめの会を持つ 4. 移動(交通)手段については、指示にしたがう 5. 実習記録物は教員の指示した日時までに提出 6. グループ内で居宅介護支援事業所で学んだことを話し合い、情報共有する
実習記録	行動計画(毎日)・最終日は評価表・各記録用紙・行動計画・まとめのテーマを 表紙・背表紙・黒紐でまとめて実習指導者に提出

【訪問看護ステーション】

実習目的：在宅で療養する対象とその家族を理解し、在宅看護が実践できる能力を習得する

- 実習目標：
1. 訪問看護ステーションの役割・機能が理解できる
 2. 在宅療養者、家族の生活状況と健康問題を理解し援助ができる
 3. 訪問看護ステーションで基本的な看護技術を応用し、対象にあった援助ができる
 4. 療養を継続して行う為に必要な社会資源の活用、並びに連携の実際を理解できる
 5. 生活の場を拠点として行う看護の為の基本姿勢を身につけ、対象に対する倫理的配慮ができる

目標及び学習内容

目標	行動目標	学習内容	備考	指導要綱
1. 訪問看護ステーションの役割、機能が理解できる	1)訪問看護ステーションの役割と機能を述べるができる	①設置主体 ②職員構成 ③利用者の概要 ④訪問看護ステーションの役割機能	・在宅に関する法律、介護保険制度、廃用症候群、慢性疾患の特徴、家族看護、各ライフステージの特徴(発達課題等)自己学習しておく	1. 実習期間中の訪問回数は、3～4回のため意図的に情報を取るよう指導する(訪問記録の活用)
2. 在宅療養者、家族の生活状況と健康問題を理解し援助ができる	1)在宅で療養している人と家族について説明できる 2)アセスメントを行い健康上の問題を明確にできる	①在宅療養者と家族の健康状態、生活状態 ②対象の療養経過 ③対象の生活行動、生活環境、在宅療養に対する反応 ④家族の介護の実態、生活状況、心理状態	・療養者の疾病、症状だけに目をむけるだけでなく人的、物的環境にも目をむける ・アセスメントを行い指導者に助言を受ける ・日常生活援助は、指導者の下で実施する ・訪問するすべての療養者に積極的な援助ができるよう、必要な情報収集や学習をしていく	2. 地域で生活している療養者の人的、物的環境にも目を向けさせる 3. 疾患や障害だけでなく、日常生活への関心を持たせるように指導する 4. 在宅は家族の協力が必要不可欠であるため、家族にも目をむけるように指導する
3. 訪問看護ステーションで基本的な看護技術を応用し、対象にあった援助ができる	1)身近にあるものを工夫・応用していく必要性がわかる 2)対象とその家族の反応をとらえ、コミュニケーションをとることができる	①対象の生活に即した援助の実際 ・日常生活 ・医療的処置 ・教育的指導 ②評価	・日常生活援助は、指導者の下で実施する ・訪問するすべての療養者に積極的な援助ができるよう、必要な情報収集や学習をしていく	5. 療養者だけでなく家族のもつ問題の重要性について気づかせる
4. 療養を継続して行うために必要な社会資源の活用、医療・福祉との連携の実際を理解できる	1)社会資源の活用方法を述べることができる 2)他職種との連携の必要性を述べることができる	①社会資源の活用方法 ①他職種との連携(医師・理学療法士・ヘルパー・ケアマネージャー他)	・療養者を通して、社会資源の活用について学ぶ ・他職種との連携をどのように行っているか学ぶ	6. 療養者、家族のセルフケアを支え、能力を高める働きかけの重要性を理解させる
5. 生活の場を拠点として行う看護の為の基本姿勢を身につけ、対象に対する倫理的配慮ができる	1)療養者、家族の価値観を尊重した態度がとれる 2)プライバシーの尊重と守秘義務が守れる	①療養者、家族の価値観、自主性、自己決定権を尊重した態度 ①プライバシーの尊重と秘密の保持	・礼儀正しい言葉使い身だしなみに気をつける ・相手を尊重した態度で接する ・生活の場に訪問するため、プライバシーを守り秘密の保持を行う	7. 在宅看護と病院の違いについて考えさせる 8. 訪問前には、目的を明確にさせ、必要な物品について確認させる。訪問時は、自宅にお邪魔するため対象者と家族への接遇は十分な配慮が必要であることを理解させる

学習方法

項目	方法
学内オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護論実習目的、目標・内容・方法・記録・態度・注意事項・必要な学習などについて説明を受ける 2. 訪問看護ステーション、看護の特徴について説明を受ける
訪問看護ステーションオリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の概要、設置主体・職員構成・設備・日課・週間予定・利用者概要 訪問看護・料金・他機関や県連職種との連携・担当医師との連携・訪問時の注意点・訪問予定者の説明を受ける
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーション実習の目的、目標を踏まえて自己の学習課題を明確にする 2. 在宅看護の機能と役割、保健、医療、福祉の連携、社会資源の活用、在宅に関する法律、慢性疾患の特徴、廃用症候群、家族看護、各ライフステージの特徴(発達課題) などについて学習する 3. 対象・家族の発達課題、病態生理、医療処置、ケアサービスについて学習する
実習の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初日にオリエンテーションを受け、指導者とともに訪問し、行動する 2. 受持ち療養者宅に訪問する際には、前日に訪問準備記録を記載し担当看護師の指導を受ける 3. 療養者を受け持ち情報収集は行う、看護過程の展開はしないが訪問後、療養者家族についてアセスメントし問題を考え述べる 4. アセスメント・問題抽出については実習中に指導者の助言を受ける 5. 1日2～3件訪問同行するときは、訪問記録は1人にしぼり記録する 6. 行動計画は、毎日記入し実習内容を整理する(教員は基本同行しないため、実習内容は具体的に記入すること) 翌日リーダーは学生全員の行動計画(評価記録済分)を集め指導者に提出する(毎日) 7. グループ内で訪問看護ステーションで学んだことを話し合い、情報共有する 8. インシデント、アクシデントがあった場合、リスク感性を高めるためのグループ内でカンファレンスを持ち振り返る
まとめの会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習最終日、在宅看護論実習での学びと今後の課題について発表し、他の学生や指導者の意見を聞き、看護観を深める
実習記録	<ol style="list-style-type: none"> 1. 所定の記録用紙を用いる ①行動計画 ②訪問看護記録 (受持ち療養者記録)4 日間の中に同じ療養者を訪問時は、訪問看護記録の裏に記録をする 最終日は評価表・各記録用紙・行動計画・まとめのテーマ を表紙・背表紙・黒紐でまとめて実習指導者に提出
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションの実習の評価は、指導者からの評価内容を参考とし、教員が最終評価をする。